

# 「御国がきますように！！ 再建の人生 イメージ」

マルコ 6:1~6

## ■ 本来の姿に戻る

コミュニティというのは、とても大事なものです。そこでは、神様が人に与えた関係の回復がなされます。ずれてしまった家族の関係もそうです。その回復のためには、時には離れて距離を置いたり、時には近づいたりといったことが必要になります。時には大きな戦いや葛藤がありますが、そこを乗り越えることが出来れば必ず回復することが出来ます。

子供達にとっても、コミュニティの中で自分のすべきことを学んだり、人や物事に感謝したり出来るのは良いことです。子供達の人生を変える一番の秘訣は飢え乾くことだからです。今の時代は、すぐに与えてしまうことが多いですが、それではいけません。飢え乾くから、「何とかしたい」という思いが生まれるのです。

神様は全てを持っていて、全てを与えることが出来ます。しかし、すぐに与えられる時もあれば、時間が必要な時もあります。最終的には願った以上のことが起こるとしても、長い時が必要になることもあるのです。そのように、神様は与えることを通して私達を訓練し、本来のあるべき姿に育てようとしてくれます。

## ■ 人生の再建

私達は、自分の人生を再建しなくてはなりません。それにはまず、自分の罪を認めることが大切です。失敗（罪）に気づかなければ、私達は変わることが出来ません。世の中では罪を知った人を裁きますが、聖書は罪を知った人を赦します。私達がすべきことは、自分が間違っているのを知ることです。道に迷っている人がいるとして、道を間違っていると指摘されたことを拒否してしまうならそこで終わってしまいます。聖書は、私達が道を間違え続けるとどうなるのか、人々の生き方を通して伝えてくれます。そこには、聞いて道を戻った人と戻らなかった人の人生が描かれています。あなたならどちらの道を選びますか？聖書を読んだ人々は、多くの物語や音楽を作ってきました。私達のよく知っている文学にも聖書から影響を受けた作品があります。例えば、イギリスのC・S・ルイスが書いた「ナルニア国物語」やJ・R・R・トールキンの「指輪物語（ロード・オブ・ザ・リング）」がそうです。

「ナルニア国物語」では、悪いものに支配された国で人々は王様を信じて待ち続けます。そして王様も人々と共に歩み、最後は命をかけて国を回復していきます。これは、聖書のイエスキリストからインスピレーションを受けて作られた物語です。C・S・ルイスは、聖書の言葉を聞いて自分の人生を変え、自分が進むべき道を照らし合わせたものを一つの作品として残しました。その作品は、今も多くの人に愛されています。

聖書の言葉は、あなたにインスピレーションを与え、あなたの人生を再建しようとします。私達が自分の人生を再建したいと願うなら、素直に聞く心を持たなくてはなりません。

## ■ 郷里に行かれたイエスとつまづく人々

「イエスはそこを去って、郷里に行かれた。弟子たちもついて行った（マルコ 6:1）」

「郷里」（エレッツ）は『地』という意味です。この言葉は、創世記 1:1 「神が天と地を想像された」の地を表しています。地には闇がありました。つまり、天にいた人が地に来なければならなかったことを示しています。ここでの「郷里」はナザレのことだけでなく、地上のすべての悪を指しているのです。

「弟子」（タルミード）という言葉は、1 歴代誌 25:8 「彼らは、下の者も上の者も、達人も弟子も、みな同じように任務のためのくじを引いた。」という箇所にあります。『同じように任務』に就く者。ここで出てくる「弟子」は十二弟子のことではなく、イエスキリストが神の弟子となって地に降り、ついて行ったことを表しています。

「安息日になったとき、会堂で教え始められた。それを聞いた多くの人々は驚いて言った（マルコ 6:2）」

「安息日」（シャバット）という言葉は創世記 2:2 神の御業、ご計画の『完了、完成』を意味しています。その後の「教え始められ」「教える」（ラマド）は、申命記 4:1 神がイスラエルの民『その所有権をお与えになる』『それを所有する』ことを示す言葉です。御言葉を聞くと、あなたの人生の失われていた物が再所有（再建）されます。あなたが過去に失ったものが、もう一度戻ってくる（回復される）ということなのです。

ところが、イスラエルの民は、あの人は「大王ではないか」「マリアの息子ではないか」と言って、聞くことをしませんでした。神様の声を聞かずに道を逸れてしまったのです。私達は神様の声を素直に聞かなければいけません。

「驚く」（シャーマーム）という言葉は、創世記 47:19 土地が『荒れ果てる』ことを意味しています。

「こうして彼らはイエスにつまずいた（マルコ 6:3）」。

つまづく、その人の持つ土地も荒れていきます。神の言葉を聞かずに、間違った道をまっすぐ進もうとするからです。その結果、恐れやつまづきが起こります。ここでは、間違った道に進むことを決断する行為は、あなたを不毛の地にしてしまうことを伝えています。

「イエスは彼らの不信仰に驚かれた（マルコ 6:6）」

「驚かれた」（ターマ）。これは、先の（シャーマーム）とは違う言葉です。この言葉は創世記 43:33 ヨセフが兄弟達を食事に招き、もてなした場面で使われています。兄弟達は、エジプトの権力者が弟のヨセフだと気づかなかったため、彼が兄弟を年の順に座らせたことに『驚き合った』と書かれています。

イエスキリストが驚いたのは、民が従わず、兄弟達が話を聞かなかったからではありません。人々から見下されても彼らを愛し、受け止めようとしてくれました。彼らを嘆き、切り捨てたように見えるかもしれませんが、それは後に彼らを救いに導くための計画でした。兄弟達に裏切られても彼らを愛して受け入れたヨセフのストーリーを通して、後に救いが来るということを伝えています。この救いは、今の私達に向けても伝えられているのです。

## ■ 聞き従う道を選ぶ

「キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました（ピリピ 2:6~8）」神様は私達を計画の中で導かれます。あなたがその声に聞き従うのなら、私達はその言葉によって神の道に帰り、そこに住みます。しかし、自分が間違っていることに気づけなければ、イスラエルの人々のようにイエスキリストの素晴らしい教えも素直に聞くことが出来ません。そのことを、聖書は一つ一つの言葉によって私達に伝えています。

ある日、大洪水が起こり、皆で教会から急いで帰る途中に一人の男の子がマンホールの中へ落ちてしまいました。男の子の母親が嘆く中、一緒に帰っていた教会の一人が「祈りなさい」という声を聞き、皆で祈ります。数時間が経って水が引き、捜索隊が入っていくと男の子が座っているのを見つけました。その男の子は、穴に落ちる時に「ロープに掴まりなさい」という声を聞き、その通りにして助かったと言います。

「祈りなさい」と「掴まりなさい」という声。信じて従った人に奇跡が起こったという、本当にあったお話です。

聖書には、このようなストーリーがたくさん出てきます。「聞き従うことは、いけにえにまさる（1サムエル 15:22）」私達の心は、自分が一番になってしまうと素直に従うことが出来ません。正しい道にまっすぐ進むなら良いのですが、曲がった道の方へまっすぐ進んでしまうなら、その先は不毛の地です。しかし、そんな従えない私達のことでも神様は何度も信じて受け入れて下さいます。自分が正しいと思う道ではなく、神様の示す道を求めて歩んでいきましょう。

## ■ まとめ

今あなたは何が間違っているのでしょうか？多くの人は「私は悪くない・あの人が悪い」と言います。しかし、悪いのは自分自身です。もし、私達の人生に問題があるなら、その問題を知って神様に祈る時に変わることが出来ます。自分のやり方を捨てて、神様に従いましょう。自分の失敗や間違いを認め、正しい道へと進むことによって私達の人生は再建されます。神様はいつも私達と共にいて、それを成し遂げさせて下さいます。

（要約者：池田 優香）

（2023年 3月 12日）